



3.3

2030年までに、エイズ、結核、マラリア及び顧みられない熱帯病といった伝染病を根絶するとともに肝炎、水系感染症及びその他の感染症に対処する。

3.4

2030年までに、非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて3分の1減少させ、精神保健及び福祉を促進する。

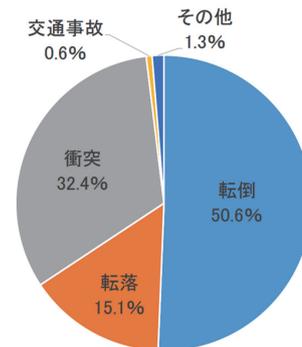
園本 美恵

歯学部

小児歯科学講座

小児の外傷について症例から受傷原因の分析を行い、外傷予防や治療法を検討する

本学の附属病院小児歯科を「歯の外傷」を主訴に受診される小児が増えています。受傷原因は転倒によるものが多く、近年の小児の運動能力の低下がうかがわれます。受傷部位は上顎前歯が多く、乳歯は軽度の位置異常を伴う脱臼（歯の位置や長さが変わる）、永久歯は歯冠破折（歯が欠ける）が多くみられます。小児の外傷は1～3歳児に患者数のピークがあり、その原因は転倒が最多で、次いで衝突、転落などが挙げられます。患者さんの統計データを活用し、受傷後の早期受診を促し、受傷しにくい環境の整備を行い、運動能力の向上や受傷防止についての小児への教育などの予防法について検討しています。



乳歯外傷の受傷原因

message

歯と口が生涯健康であることを願って、むし歯・歯周病の予防・治療、歯並びの治療、埋伏過剰歯や嚢胞の外科処置、歯・口のケガの治療、口腔機能発達不全症の摂食機能指導など、子どもに生じたすべての口腔の異常・疾患を対象として診療を行います。